

## 国際イネ研究所(IRRI)に滞在して

派遣期間: 2010.03.30~2010.04.30

派遣国名: フィリピン共和国 受入機関: 国際イネ研究所

私は、フィリピン共和国ラグナ州ロスバニョス国際イネ研究所(IRRI)に一ヶ月間滞在した(写真1)。私は、一ヶ月以上の単独での在外生活は初めてであり、日常生活の慣れも含め、IRRIの環境のなんでも経験してることが、今回の滞在における主な目的であった。国際イネ研究所は貧困撲滅と福祉改善をミッションとして、遺伝資源の収集・保存、育種、栽培管理、農政経済に関する研究・開発事業だけでなく、学生や農民への普及と教育等の人材育成を行っている。IRRIは研修用の宿泊施設を用意しており、その宿泊施設に滞在した。



写真1

派遣者が訪問した時期は、IRRI設立60周年記念フェスティバルがちょうど行われており、フィールドツアー(圃場見学)に参加した。トラクターに引かれたトレーラー(写真2)に乗り込み、育種の現場を視察した。深水耐性遺伝子Sub1を導入した新品種を観察したが、通常のイネがすべて深水条件で枯死している中、生き生きとしたその新品種は印象的であった。



写真2

平日は、大半は実際に圃場に出て、交配チャンバーや除雄ポンプなどの施設の見学および作業を行った。労働者に指示し、交配用の植物体を掘り上げてもらった。その際、スコップを使わず、鎌を土にぐさっとさし、根をぎりぎり切り取りながら株を引き上げる点が驚きであった。除雄に関しては、ポンプにて未開花の穎花の葯を吸い取って行う方法(クリッピング)を採用しており、夕方頃に労働者十数人がかりで行っていた(写真3)。



写真3

日中はとても暑く、猫も人間ものんびり日陰で休んでいた。私は、日中はオフィスに戻り論文執筆等を行った。滞在中は学生およびポストクの自治会AFSTRYが主催するパーティに参加し、様々な国の方を知ることとなった。各国対抗(?)の料理コンテストが開催され、我々日本チームはちらし寿司と焼き肉(豚と牛をわける)などを出品し、好評であった。

今回の派遣を通して、国際機関では様々な国の方々の話しを見聞きし、様々な価値観や慣習に触れることができた。国際経験とは、様々な人間の違いを受け入れる中で、普遍なことを見つけることなのかもしれないと思った。また、海外の研究活動においては、特に度胸と熱意と言語能力が必要であると感じた。本プログラムを活用し、多種多様な若手がどんどん海外に打って出る機会を得る事を期待する。